

研究事業（研究事業中の分野名）：厚生労働科学特別研究事業

所管課： 大臣官房厚生科学課

①研究事業の目的

国民の健康生活を脅かす突発的な問題や社会的要請の強い諸課題について、緊急に行政による効果的な施策が必要な場合、先駆的な研究を支援し、当該課題を解決するための新たな科学的基盤を得ることを目的とする。

②課題採択・資金配分の全般的状況

**特別研究事業**

 国民の健康生活を脅かす突発的な問題や社会的要請の強い諸課題について、緊急に行政による効果的な施策が必要な場合、先駆的な研究を支援し、当該課題を解決するための新たな科学的基盤を得ることを目的としている。

平成18年度研究成果例

- ・ 地域医療計画における在宅医療のあり方に関する研究
- ・ 看護職員の確保に関する取組の現状と課題
- ・ 新型インフルエンザ対応ワクチンの効果測定及び品質管理に関する研究
- ・ 移植医療の法的・社会基盤に関する研究

等々



採択にあたって、公募は行っていないが、事前評価委員会における評価を踏まえ、課題配分額の設定基準を基に配分することとしている。

③研究成果及びその他の効果

緊急性の高い研究課題に関して、期待された知見が提供された。たとえば、平成18年4月の診療報酬改定に伴う在宅医療のあり方や看護職員確保に関する調査等は緊急性が高く、医療計画を策定するための喫緊の課題として位置づけられた。また、健康危機管理的な側面から、新型インフルエンザ対応ワクチン開発における効果測定法及び品質管理に関する研究は、同ワクチン開発段階で浮上した問題解決のために不可欠とされた研究である。また、臓器移植法の改正案の審議において検討される小児の脳死判定基準等についての科学的根拠・妥当性の検証や昨今明らかになった宇和島市の生体腎移植に関連する一連の問題等は、移植医療のあり方についてさまざまな角度から検討する必要性を生じさせた。いずれも厚生行政における制度・施策に関連の高い研究課題であり、発展的な提言を得る等、有効な成果を多く得ている。

④行政施策との関連性・事業の目的に対する達成度

研究期間は1年以内の研究であるが、行政施策と関連性が高く、かつ、緊急性の高い行政課題を科学的な観点から解決するため、極めて必要性が高い。

本研究事業の成果は、各部局における審議会等の基礎資料や、臨床現場で有効に活用されており、事業の目的に対する達成度は高い。

⑤課題と今後の方向性

国民の安心・安全な健康生活を脅かすような健康危機管理上の緊急課題については、これまで通り迅速に対応する。また、各部局との連携を一層密にし、厚生科学研究事業を効率的に進めるとともに、質の高い研究成果が得られるよう支援していくことが望まれる。

⑥研究事業の総合評価

効果的・効率的に事業が実施されており、必要性は極めて高い。今後とも、一層の予算確保に努めると共に、行政的に重要な研究を、適切に実施する体制とすることが望ましい。

## <II. 厚生科学基盤研究分野>

厚生科学基盤研究分野は、臨床に直結する成果が期待できる基盤研究に対して補助することを目的としている。厚生科学基盤研究分野は、「先端的基盤開発研究事業」と「臨床応用基盤研究事業」から構成されている。

研究事業	研究領域	18年度予算額（千円）
3. 先端的基盤開発	ヒトゲノム・再生医療等	3,148,445
	萌芽的先端医療技術推進	2,125,422
	身体機能解析・補助・代替 機器開発	1,113,045
	創薬基盤総合	3,505,547
4. 臨床応用基盤	基礎研究成果の臨床応用 推進	853,811
	医療技術実用化総合	2,420,569

### **3. 先端的基盤開發研究事業**